

(教育委員会用)

平成28年度「学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解(心のバリアフリー)の推進事業」成果報告書

団体名

茨城県教育委員会

I 概要

1 事業の概要

本県では、交流及び共同学習推進事業に関するリーフレットの配布や研修会の実施等による理解啓発を行い、社会性や豊かな人間性を育むための交流及び共同学習の充実を図っているところである。

すでに交流及び共同学習を実施している学校については、継続的に実施することで、地域の一員として、理解と認識を深めるなど一定の成果を上げている。しかし、交流及び共同学習の一層の充実を図るためには、交流及び共同学習の必要性や意義等について、理解啓発を進めることや、障害のある幼児児童生徒と、障害のない幼児児童生徒がより広く交流できるよう、実施方法や内容について、さらに工夫・改善を行う必要がある。

そこで、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催、2019年の全国障害者スポーツ大会茨城大会の開催に向けて、障害のある児童生徒と障害のない児童生徒がスポーツの楽しさを共に味わうことによって、障害者スポーツの理解啓発を図るとともに、障害のある人の社会参加や障害に対する理解を深め、社会性や豊かな人間性を育むことを目的として実施する。

2 事業の成果

1 障害者スポーツを通じた交流及び共同学習

(1) アンケートの実施

交流及び共同学習の実施前後に、アンケートを実施し、評価を行った。

実施前のアンケート結果から児童生徒の実態を把握したことで、実態に応じた目標を設定することができた。

事後アンケートからは、「障害や障害者への理解」や「障害者スポーツへの興味」等が深まったという結果が得られ、実施前後の児童生徒の変容を把握するために有効であった。

(2) 出前授業（事前学習）の実施

特別支援学校の教員が、交流校において出向いて授業を行う出前授業（事前学習）を実施した。

事前学習では、特別支援学校の概要や、障害や障害者スポーツについての説明を行い、理解を深められるような支援を行った。また、障害者スポーツについての説明においては、映像による障害者スポーツの紹介を行ったり、実際に車いすに乗り操作したりする体験活動を取り入れた。

出前授業による事前学習を実施したことで、交流校の児童生徒は、障害や障害者スポーツに対する理解を深めるとともに、安心感をもって、積極的にかかわり合う交流及び共同学習となった。

(3) フロアバレーボールをとおした学校間交流

茨城県フロアバレーボール協会と連携し、障害者アスリートを講師とした体験交流会を実施した。障害者アスリートによるデモンストレーションや技術指導及び全国大会等で活用する社会人チームによるエキシビジョンマッチを取り入れる等の工夫をし、生徒が障害者スポーツの迫力あるプレーを体感できるようにした。技術や戦術、競技の面白さを味わうことができた。

(4) 車いすバスケットボールをとおした学校間交流

競技用車いすを使用し、特徴やルールを説明したり、ゲームを行ったりする活動に取り組んだ。車いすバスケットボールの活動の導入として、卓上バレーや車いすりレー等、他の障害者スポーツの体験を取り入れたことで、幅広く障害者スポーツの楽しさを味わうことができた。ルールの説明や技術指導、ゲームをとおして、児童生徒が互いにかかわり合い、理解を深めることができた。また、活動時間を確保したことで、児童生徒の車いすバスケットボールのスキルの向上が図られるとともに、競技の特性を理解し、チームワークを意識して取り組むことができた。

(5) ハンドサッカーをとおした学校間交流

競技のイメージがもてるように、特別支援学校の生徒によるデモンストレーションを実施し、ルールの説明をとおして協議の特性が理解できるようにした。交流校の生徒の混合チームを編成したゲームにおいては、チーム内によるポジションや作戦についての活発な話し合いをとおして交流を深めることができた。

(6) ボッチャをとおした学校間交流

「茨城ぼっちゃ倶楽部」と連携し、ボランティアによる公式ルールの説明等を実施したことで、生徒への指導内容を充実させることができた。また、競技ボッチャだけでなく、ルールや補助具を工夫し、レクリエーションボッチャを併せて実施したことで、児童生徒の実態に応じた交流を実施することができた。また、肢体不自由特別支援学校の児童生徒は、普段の授業等でボッチャに取り組んでいたことから、交流校の児童生

徒に、ポッチャのボールの投げ方についてや、勾配具（ランプ）の使い方等を積極的に伝えることができ、主体的な取組ができた。

2 障害者アスリート等による講演会

(1) 義肢装具士による講演

義肢装具士、臼井二美男氏による講演会を実施した。

「義足アスリートの競技生活」による講演をとおして、義肢装具士の仕事内容や義足利用者の日常生活、競技活動について等、専門的な内容を講演していただき、障害者スポーツの理解啓発を図ることができた。また、講話だけでなく、義足の切断障害者によるデモンストレーションや、生徒の義足体験等の工夫を取り入れたことで、生徒が高い関心をもって聞くことができた。

(2) パラリンピック・車いすバスケットボール元日本代表選手による講演

車いすバスケットボール元日本代表選手である三宅克己氏、神保康広氏による講演会を実施した。

「車いすバスケットボール・パラリンピックで得たもの」「思いを貫き、行動すること」による講演では、パラリンピックをとおして学んだことや得たことについて、また、健常者から障害者となってから乗り越えてきた困難について、スライド等を用いて生徒に分かりやすく示していただき、障害者及び障害者スポーツの理解を深めることができた。

(3) パラリンピック・車いす女子バスケットボール元日本代表選手による講演

シドニーパラリンピック車いす女子バスケットボールの銅メダリストであり、現役選手である上村知佳氏による講演会を実施した。

「パラリンピアンから学ぶスポーツの魅力～自分の可能性を信じて～」による講演では、車いすバスケットボールの魅力について、パラリンピックの意義や2020年のパラリンピックに向けた取組等についての講話をいただき、障害者及び障害者スポーツの理解を深めることができた。

3 事業成果の発信

(1) リーフレットの作成と活用

各モデル校で取り組んだ、障害者スポーツをとおした交流及び共同学習の実際や障害者アスリート等による講演会についての内容を盛り込んだリーフレットを作成し、県内の公私立の学校（園）等に配付し、事業の成果の周知を図ることができた。

(2) ホームページの活用

各モデル校のホームページや県ホームページを活用し、各校の取組内容の紹介や、リーフレットを掲載し、広く事業の成果の周知を図った。

3 事業の課題とその解決のために必要な取組

1 新たな課題

(1) 事前学習の充実

特別支援学校の教員が交流校に出向いて授業を行う出前授業により、交流校の児童生徒は障害等について理解し、交流及び共同学習の活動内容への見通しをもつことができた。しかし、相互の児童生徒が、より主体的にかかわり合い、互いの良さを認め合うことができるような交流及び共同学習の充実を図るために、障害者スポーツの理解啓発と交流校の児童生徒の興味・関心を高められるような事前学習の充実を図ることが必要である。

(2) 地域への発信の充実

障害者アスリート等による講演会では、事前の広報を充実し、より多くの地域の方が参加できるような、情報提供の工夫が必要である。

また、新聞等や地域の広報機関への取材依頼や学校等のホームページにより広く周知を図ることが必要である。

2 今後に向けて

(1) 計画的な交流及び共同学習の実践及び活動内容の充実

学校間交流の実施日や活動内容について調整を図り、充実した交流及び共同学習が実施できるために、早い時期から計画的に取り組む必要がある。計画的に取り組むことで、地域や児童生徒の実態に応じた交流及び共同学習が実施できるように活動内容の充実を図りたい。

(2) 事業成果の発信

東京オリンピック・パラリンピック及び全国障害者スポーツ大会茨城大会の開催に向けた、障害者スポーツの理解啓発の推進のために、地域への発信は必要不可欠である。本年度の課題を踏まえ、広く地域へ発信していけるような情報提供の充実を図りたい。

(3) 検証方法の工夫・改善

事業実施の前後で、アンケートを実施し、児童生徒や教職員の意識がどのように変容し、実施後の学校生活や障害者スポーツの取組等に反映されているかを把握した。

結果の分析に基づいて、障害者理解向上のために効果があるスポーツを通じた交流及び共同学習の活動の在り方について、検証できるよう、検証方法の工夫・改善を図りたい。